

促成イチゴ新品種「群馬I-RG3（仮称）」の特性

「群馬I-RG3（仮称）」は、11月下旬から収穫可能な早生の一季成リイチゴ品種です。「やよいひめ」と比較して、イチゴ販売単価が高い年内収量および2月までの前期収量が多く、糖度がシーズンをとって高い（「やよいひめ」よりも約1度(Brix%)上回る）特徴があり、良食味品種です。

1. 草 姿

「群馬I-RG3」

「やよいひめ」

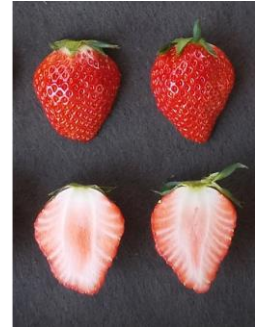


（※2022年12月6日撮影）

2. 果 実

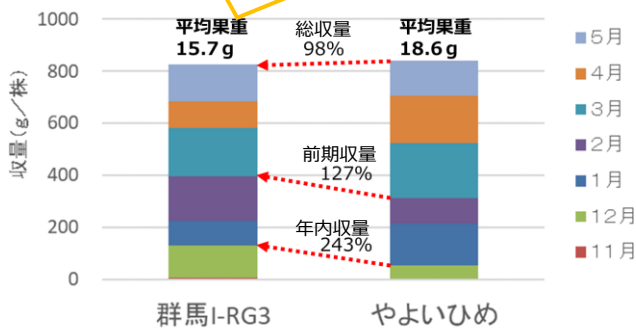
「群馬I-RG3」

「やよいひめ」



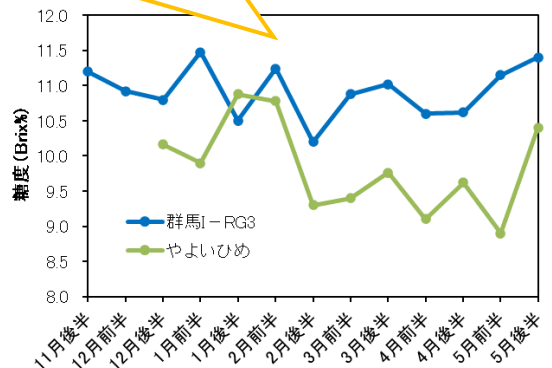
3. 収量性

早生、年内収量・前期収量が多い



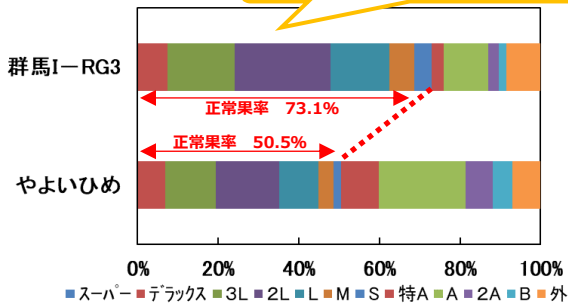
4. 糖 度

約1度 (Brix%) 高い、高糖度👍

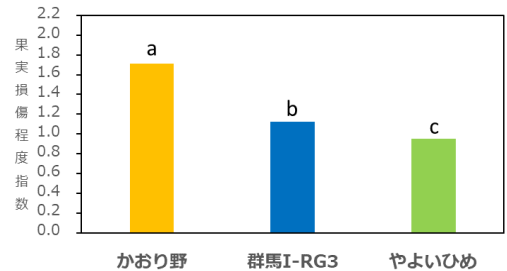


5. 果実の揃い

正常果率が高く、揃い👍



6. 果実の損傷程度（収穫時）



注) 収穫果実の外観の損傷程度を3：果実の潰れ、果皮のスレ、果汁の滲出、2：潰れを伴わない果皮のスレ・オセ傷、1：軽微なスレ・オセ傷(ツヤなし)、0：果実の損傷なしの4段階の指数で評価した。
※異なる英小文字はスティーブル・ドゥワースの検定で有意差あり (p<0.05)。

利用上の留意点

- 「群馬I-RG3」のガク取れ果発生率は「やよいひめ」より高く、灌水量が少ない圃場で発生が増える傾向があるため、適度な土壌水分管理が必要です。
- 炭疽病および疫病に対する抵抗性は「やよいひめ」と同程度かやや弱く、萎黄病に対する抵抗性は「やよいひめ」と同程度であり、適期防除が必要です。

果皮は「やよいひめ」の方が強い